

# 災害対策啓発事業

[493]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0101	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略
基本事業	01	防災・減災意識の高揚	担当	総務部 災害対策室	

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	市民	<p>啓発 紙媒体での啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災マップ等のパンフレットの作成・配布</li> <li>広報おわりあさひによる防災情報のPR</li> </ul> <p>電子媒体での啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市ホームページで防災情報の提供</li> </ul> <p>講座・講習会による啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災講習会の実施</li> <li>自主防災組織への研修等や市民への「出前講座」を通じた防災対策の周知見せる啓発</li> <li>健康フェスタでの「防災コーナー」の設置と情報提供</li> <li>市民祭での「防災コーナー」の設置と情報提供</li> <li>避難所、一時避難場所周知用の看板設置</li> </ul> <p>家具転倒防止支援事業 平成28年度6月1日より実施。出前講座等の場で啓発していく。</p>
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各家庭で防災に関して話をしたり、食糧等の備蓄、家具固定、家の耐震補強等の事前の防災対策が行われるようになっている。</li> <li>災害時の対応などを熟知し、落ち着いて行動ができるようになっている。</li> </ul>

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	出前講座実施回数 (各種防災関係マップ・パンフレット等の配布部数(数値は<>))	回	15<1000>	12	20	9
	家具転倒防止支援事業利用世帯数 (看板設置箇所数(数値は<>))	世帯	28<13>	8	30	4
成果指標	避難所の運営主体が自主防災組織を中心とした自治会・町内会役員であると考えている割合	%		40.0	48.5	32.0
	家具の転倒防止を行っている世帯割合	%		31.2	40	33.3
事業費 計			2,864	1,951	2,695	2,398
財源内訳		ア 国				
		イ 県	408		168	121
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般	2,456	1,951	2,527	2,277

## H30年度実績の評価

成果実績評価	<p>【活動指標の状況】 遅延あり</p> <p>【成果指標の状況】 低下</p> <p>【成果向上余地】 余地が中程度</p>	<p>(状況) 避難所の運営主体が自主防災組織中心であると考えている割合、家具の転倒防止を行っている世帯割合は、市民アンケートを基に試算しているが、それぞれ割合として過半数を割っている。</p> <p>(原因) 自主防災組織自体の活動があまりできておらず、それをサポートする市側にもあまり工夫がなかった。</p>
--------	--	--

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0102	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略
基本事業	01	防災・減災意識の高揚	担当	都市整備部 都市計画課	

事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
	<p>・昭和56年5月31日以前の基準で建築された木造軸組構法の民間住宅で、現に住んでいるもの</p> <p>・専門家耐震診断の結果、判定値が1.0未満の住宅又は0.4以下の住宅</p> <p>・県建築物地震対策推進協議会</p> <p>・地震発生時における自宅の耐震性を確認し「一応倒壊しない」又は「倒壊しない」(判定値1.0以上)と評価される建物にする。</p> <p>・地震対策の啓発が図られている。</p> <p>民間木造住宅耐震診断</p> <p>・旧基準木造住宅の所有者から「専門家耐震診断申込書」により申請を受け付ける。</p> <p>・耐震診断員に依頼し、専門家耐震診断を実施する。</p> <p>・耐震診断員が申請者宅に診断結果を持参し、説明を行う。</p> <p>民間木造住宅耐震改修費等補助</p> <p>・対象となる住宅の耐震改修工事等にかかる工事費用の一部に補助金を交付する。建替えは対象外</p> <p>補助事業：民間木造住宅耐震改修費補助事業、民間木造住宅段階的耐震改修事業費補助、木造住宅耐震シェルター整備事業費補助、戸建住宅除却費補助及びブロック塀等撤去工事費補助</p> <p>受付期間：毎年度5月上旬～5月中旬。ただし、期間内に募集件数に満たない場合は期間後随時受付。(同年度内の1月末日までに工事完了を条件とする。)</p> <p>手続きの流れ：申込み 交付対象者決定通知 申請書類審査 交付決定通知 工事契約 着工 中間検査 完了実績報告 完了検査 完了確認通知 支払請求 補助金支払い</p> <p>県建築物地震対策推進協議会負担金</p> <p>・愛知県建築物地震対策推進協議会に負担金を納付する。</p>	

活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	耐震診断実施件数(延べ戸数・再診断戸数を除く)	件	1,663	1,696	1,763	1,736
	耐震改修費補助金交付件数(延べ戸数)	件	149	153	157	156
成果指標	耐震診断実施率	%	33.70	35.30	38.88	37.17
	耐震改修費補助交付率	%	100	100	100	100
事業費 計			9,567	6,748	12,846	10,152
財源内訳		ア 国	4,783	3,255	3,526	3,441
		イ 県	2,392	1,628	1,763	1,438
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般	2,392	1,865	7,557	5,273

H30年度実績の評価

成果実績評価	<p>【活動指標の状況】 一部遅延あり</p> <p>【成果指標の状況】 維持・横ばい</p> <p>【成果向上余地】 余地が中程度</p>	<p>(状況)「耐震診断実施率」は去年実績と比べて、1.9ポイント上昇していますが、H30計画値と比較すると、0.74%低い結果となっている。</p> <p>(原因)耐震診断対象住宅の所有者へダイレクトメール送付や戸別訪問を実施し、耐震診断利用者の拡大を図っているが、まだ耐震診断の重要性を周知されていないことが原因であると考えられる。</p>
--------	--	--

H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

# 防災行政無線等管理事業

[503]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0201	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略
基本事業	02	災害情報システムの充実	担当	総務部 災害対策室	

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	

**対象(誰、何に対して事業を行うのか)**  
 市民、県内各市町村や愛知県、市職員  
 市防災行政無線(固定系、移動系)  
 県防災行政無線(地上系、衛星系)  
 高度情報通信ネットワーク

**意図(対象をどのような状態にしたいのか)**  
 ・市民が災害時に災害情報を得ることができるよう、適切に維持管理が行われている。  
 ・県等と市の間で災害情報の発信・取得が行えるようにシステムが整備されている。

**手段(事務事業の内容、やり方、手順)**  
 <市民への情報伝達手段>  
 市防災行政無線(固定系、移動系)  
 ・固定系及び移動系の防災行政無線の維持管理を行う。無線免許の更新を5年ごとに申請するとともに毎年電波利用料を支払う。災害時の停電に備え、3年ごとに無停電時電源バッテリー交換を行う。なお、バッテリー交換は、施設修繕料で支払う。  
 ・令和元年にデジタル化工事設計を行い、令和2年にデジタル化工事を行う。  
 <県と市の情報交換システム>  
 県防災行政無線(地上系、衛星系)  
 県内各市町村の設備については、協議会を設置し、一括で点検・保守を行い、費用を負担金で支払う。本無線設備は、災害時における県と各市町村間の通信手段であり、予備回線として衛星無線を整備している。  
 高度情報通信ネットワークについては、県が設置し、点検管理している。市は県への情報伝達の電話代を負担する。また、無停電電源装置は10年ごとに更新する。  
 <気象情報会社から市の情報提供委託>  
 気象情報会社から24時間の気象監視を通して、非常配備体制や配備時期の提言、警報発令時における災害対策本部の対策案を提案を受ける。  
 <全国瞬時警報システム(J-ALERT)>  
 平成23年度より本格運用(平成27年度に事務事業を統合)。適切に運用、維持管理を行っていく。  
 平成30年度には新型受信機に更新を行った。

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	点検回数	回	2	2	2	2
	操作訓練回数(県との通信訓練)	回	10	10	10	6
成果指標	システム全般の重大な不具合件数	回	0	0	0	0
事業費 計			10,785	8,021	9,654	9,559
財源内訳			千円			
ア 国						
イ 県			921	66		
ウ 地方債						
エ その他						
オ 一般			9,864	7,955	9,654	9,559

## H30年度実績の評価

成果実績評価	<b>【活動指標の状況】</b> 一部遅延あり <b>【成果指標の状況】</b> 維持・横ばい <b>【成果向上余地】</b> なし	(状況)活動指標Bについては、H29実績とH30実績を比較すると4件減少しています。成果指標Cについては、H29実績から増減はありません。 (原因)活動指標Bについては、県との合同訓練であり、県との日程の都合により減少しました。
--------	---	---

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	見直し
	防災行政無線のデジタル化に向けた準備を進めます。		
実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	
	様々な情報システムについて、情報収集を実施しました。		

事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0202	実施計画	
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略	
基本事業	02	災害情報システムの充実	担当	総務部 災害対策室		

事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	市民 市職員	手段(事務事業の内容、やり方、手順)	携帯電話等の電子メールを活用した災害情報の伝達を行う。 【あさひ安全安心メール】H18.3導入 <市民> ・登録の啓発 ・災害時に情報伝達(警報等)を行い、注意喚起、避難等警戒及び警告を行う。 市民の登録者数を増加させるため啓発等を行っていく。
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)		<職員> ・職員のアドレスの登録及び管理 ・メール受信確認テストの実施 ・職員に災害情報の伝達を行うとともに、非常配備を指令する。	
	・災害時に、防災行政無線以外の伝達手段の確保を図るとともに、市民に対して広報等情報伝達を実施される。 ・職員に対し参集情報を伝達し、災害対応に必要な体制の確保が行われる。	(緊急速報メール) ・NTTDOCOMO(エリアメール)・au、ソフトバンク(緊急速報メール)を導入し、あさひ安全安心メールと連携している。		

活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	市民のシステムへの登録者数	人	8,153	8,410	8,000	8,829
	市職員のシステムへの登録者数	人	647	650	580	765
成果指標	市民に情報を伝達した回数	回	17	27	20	37
	職員に情報や参集指示を伝達した回数	回	3	7	25	9
事業費 計			1,089	1,089	1,170	1,170
財源内訳	ア 国	千円				
	イ 県					
	ウ 地方債					
	エ その他					
	オ 一般		1,089	1,089	1,170	1,170

H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】 非常に順調 【成果指標の状況】 向上(最高状態維持含む) 【成果向上余地】 余地が中程度	(状況)市民に情報を伝達した回数、および職員に情報や参集指示を伝達した回数はH29に比べH30は増加している。 (原因)前年に比べ風水害等の脅威が増えているのが原因と考えられる。
--------	---	--

H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

# 備蓄物資・資機材整備管理事業

[506]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0301	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略
基本事業	03	避難生活の支援	担当	総務部 災害対策室	

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	避難住民	<p>災害時に必要な食糧や日常生活品等備蓄品の整備を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市独自の被害想定に基づき、避難者数を8,262人と想定</li> <li>避難住民3日間分の食糧等を平成28年度から5年かけて購入し確保する。</li> <li>各倉庫の備蓄品の保存期間を把握し保存期間終了前に訓練等で活用するとともに、新たな備蓄物資等を検討する。</li> </ul> <p>備蓄代替手段の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民には、「自助」の必要性を呼びかけ、最低でも3日間、できれば1週間分の食料等備蓄を推進する。</li> </ul> <p>防災倉庫の備品の確認を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各防災倉庫を確認し、修繕を行っていく。</li> <li>各防災倉庫を整理するとともに、各倉庫に何がどれだけあるかを管理する。</li> </ul> <p>マンホールトイレの設置計画の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当初の毎年2校ずつの整備から3校に増やし整備する。</li> </ul> <p>備蓄飲料水の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災倉庫にある飲料水(500ml、1.5?)に三郷小、城山小、東栄小の緊急遮断弁のついた受水槽(37,000?)を足す。</li> </ul>
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	<p>災害に備え、常に避難住民に必要な食糧や生活必需品が確保されている。</p>

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	備蓄食糧の量(食)	食	51,234	61,853	73,269	68,260
	備蓄飲料水の量(リットル)	リットル	55,492	60,712	59,380	67,888
成果指標	避難想定人数に対する備蓄食糧の充足割合	%	68.9	82.5	97.7	91.0
	避難想定人数に対する備蓄飲料水の充足割合	%	74.1	80.9	79.2	90.5
事業費 計			12,756	7,867	9,079	8,890
財源内訳	ア 国	千円				
	イ 県		1,733	1,632	2,053	1,867
	ウ 地方債					
	エ その他					
	オ 一般		11,023	6,235	7,026	7,023

## H30年度実績の評価

成果実績評価	<p>【活動指標の状況】 順調</p> <p>【成果指標の状況】 維持・横ばい</p> <p>【成果向上余地】 なし</p>	<p>(状況)平成28年度から平成32年度までの5年での購入計画に基づき、計画通り購入しており、成果指標Cについては、H29実績とH30実績を比較すると、8.5%向上しており、成果指標Dについては、9.6%向上している。平成28年度から平成32年度までの5年での購入計画に基づき、計画通り購入しています。</p>
--------	--	--

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	拡大
	<p>南海トラフ地震の発生に備え、備蓄物資や資機材について必要な整備を進めます。市役所内の備蓄物資や資機材の保管場所を検討します。</p>		
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	
	<p>購入計画に基づき、計画通り購入しています。</p>		

# 耐震性貯水槽等維持管理事業

[496]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0401	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略
基本事業	04	防災体制の充実	担当	総務部 災害対策室	

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	<p>市民 市内3箇所の貯水槽緊急遮断弁 飲料水兼用耐震性貯水槽</p> <p>意図(対象をどのような状態にしたいのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震発生時に市内3箇所の貯水槽の緊急遮断弁が作動し、貯水槽内の飲料水が確保されている。</li> <li>地震発生時に飲料水兼用耐震貯水槽の緊急遮断弁が作動し、貯水槽内の飲料水が確保されている。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>配水場市内3箇所の貯水槽(貯水量 21,200 t) <ul style="list-style-type: none"> <li>柏井配水場(柏井配水区1箇所、高区配水区2箇所 計3箇所)</li> <li>旭ヶ丘配水場(高区配水区1箇所 計1箇所)</li> </ul> </li> <li>飲料水兼用耐震性貯水槽(貯水量 100 t) <ul style="list-style-type: none"> <li>北山公園地内(白鳳小学校区)</li> </ul> </li> <li>地震等の災害時に市民への飲料水の供給するため、飲料水兼用耐震性貯水槽からの流出を抑え、貯水槽内の飲料水の確保を図ることを目的に、貯水槽を設置している。</li> </ol> <p>維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理に関しては、市長と水道事業管理者で維持管理を水道事業管理者に委任し、保守点検や修繕料を支払う旨の協定を締結している。</li> <li>上記協定に基づき、毎年、年度末に保守点検や修繕料相当額を負担金として支払う。ただし、修繕料は実施年度の翌年に予算計上し、支払う。</li> </ul>

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	保守点検回数	回数	3	3	3	3
	保守点検回数	回数	0	1	1	1
成果指標	点検の結果に基づき、修繕を行った箇所数	箇所	1	0	0	0
事業費 計			270	1,696	385	357
指標・事業費	財源内訳	ア 国				
		イ 県				
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般	千円	270	1,696	385

## H30年度実績の評価

成果実績評価	<p>【活動指標の状況】 非常に順調</p> <p>【成果指標の状況】 維持・横ばい</p> <p>【成果向上余地】 余地が小さい・なし</p>	<p>(状況) 点検に基づき修繕の必要な箇所はなかった。</p>
--------	--	--------------------------------------

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	見直し
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

# 防災訓練事業

[509]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0402	実施計画	
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略	
基本事業	04	防災体制の充実	担当	総務部 災害対策室		

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	市民 市職員 防災関係機関	<p>&lt;総合防災訓練&gt; 市民を中心として、市職員、防災関係機関等と南海トラフ巨大地震を想定した総合防災訓練を実施。 東日本大震災の教訓から、地域住民による「自助・共助」を主体とした訓練、実践的な訓練を実施する。 自主防災組織が主体となり地域住民と「倒壊家屋救出訓練」、「初期消火訓練」、「救護訓練」など行う。</p>
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	

市民一人ひとりに防災意識を高め、災害から自身を守るとともに、お互いに助け合う行動力が高まっている。防災関係機関とスムーズな連携を図ることができるようになっている。

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	防災訓練参加者	人	750	950	1,500	600
成果指標	実際に訓練を体験した市民数	人	400	600	600	350
事業費 計			2,859	2,093	2,675	2,315
財源内訳		ア 国				
		イ 県				
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般	千円	2,859	2,093	2,675

## H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】 遅延あり	<p>(状況) 活動指標のH29年実績とH30年実績を比べて、41.7%低下している。 (原因) 総合防災訓練は、毎年小学校区を変えて実施しているため、校区毎の人口により影響もあると考えられる。</p>
	【成果指標の状況】 低下 【成果向上余地】 余地が中程度	

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	見直し
	平成29年度の防災訓練の結果を踏まえ、実施方法の改善に向けて取り組みます。		
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	

平成29年度のアンケート結果を基にして、訓練項目に消防・警察・自衛隊による公助訓練を取り入れた。また、訓練実施方法については、完全なローテーション方式を取りやめ、一部ローテーション方式に変更した。

# 地域防災計画策定事業

[510]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0403	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略
基本事業	04	防災体制の充実	担当	総務部 災害対策室	

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	市民 市職員 防災関係機関	1 尾張旭市防災会議において、市域に係る風水害・原子力等の災害、地震災害に関する予防対策、応急対策・復旧対策を事項を定め、防災活動を総合的かつ計画的に実施し、市民の生命・財産を保護するために計画を策定する。  2 防災会議 防災会議において、県の地域防災計画の修正や各課の修正事項を検討し、策定する。 委員 25名 委員報酬 6,400円(1回) 会議開催数 年2回 平成28年度に新規委員を2名追加した。
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	3 地域防災計画の印刷 防災会議で地域防災計画を策定後に関係機関、市幹部職員及び相互応援協定締結先の各市町に配布しているが、印刷部数を精査していく。
	尾張旭市地域防災計画を毎年見直しを行い、災害へ適切に対応できる体制を確立するよう社会状況の変化に合わせて計画修正を行い、災害対応ができるようになっている。	

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	防災会議開催数	回	2	2	2	2
	地域防災計画印刷部数	部	95	95	95	65
成果指標	地域防災計画の修正回数	回	1	1	1	1
事業費 計			534	537	580	520
財源内訳		ア 国				
		イ 県				
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般	千円	534	537	580

## H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】 順調	(状況) 地域防災計画の修正回数は毎年1回行っている。 (原因) 市地域防災計画は年に1回行われる県の防災計画の修正と合わせて行われるため、回数としては年に1回となっている。
	【成果指標の状況】 維持・横ばい  【成果向上余地】 余地が小さい・なし	

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	見直し
	女性の視点を踏まえた避難所運営について検討します。 災害時の支援物資受け入れ場所の明文化について検討します。		
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	
「妊産婦・乳幼児を守る災害時ガイドライン」等を参考に避難所運営マニュアルを改訂し、各自主防災組織に配付した。 災害時の支援物資受け入れ場所として、尾張東地方卸売市場を利用する協定を締結し、尾張旭市防災計画に反映させた。			



# 自主防災組織育成運営支援事業

[511]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0404	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略
基本事業	04	防災体制の充実	担当	総務部 災害対策室	

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	自主防災組織加入者 校区ごとの地域住民	自主防災組織運営費や事業費(地域防災訓練、先進地視察、防災講演会など)に対して補助を行う。 必要に応じて、資機材の貸し出しや消防本部や消防団、婦人消防クラブなどとの連絡調整を行う。 自主防災組織役員連絡会を開催し、各自主防災組織間の情報交換、意見交換や「防災講習会」を通じて各自主防災組織活動の活性化を図る。 避難行動要支援者支援事業が地域で推進できるよう支援を行う。 自主防災組織役員に対して、防災服等を支給する。ただし、各自主防災組織内で防災服のサイズ等を調整し、不足分のみを購入し支給する。
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	補助の概要 補助金額 1 自主防災組織1団体: 40万円 (対象: 資機材整備、講演会、防災マップなど) 2 尾張旭防災リーダー会: 独自の活動(5万円上限) (対象: 家具転倒防止講習会、応急手当講習会など) 3 町内会: 避難行動要支援者支援事業(5万円上限) (対象: 消耗品費、講師報酬など) 補助金の主な支出内容 防災訓練に係る経費、自主防災組織資機材等 地区によって異なる 平成29年度補助金要綱の見直しを行う。
	・自主防災組織の活動に多くの人が参加するようになっている。 ・平時において、効果的な防災訓練や防災知識の普及など防災活動が行われている。 ・災害時に、自主的かつ組織的な人命救助や消火活動が適切に行われる。	

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	補助金額	千円	3,765	3,680	3,800	3,650
	自主防災組役員打ち合わせ会の開催数	回	2	2	3	2
成果指標	自主防災組織の活動に参加している市民割合	%		4.7	8	4.6
事業費 計			4,280	4,538	4,143	3,992
指標・事業費	財源内訳	ア 国	千円			
		イ 県				
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般		4,280	4,538	4,143

## H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】 遅延あり 【成果指標の状況】 低下 【成果向上余地】 余地が中程度	(状況) 成果指標Cについては、H29実績とH30実績を比較すると0.1%低下している。 (原因) 自主防災組織の活動状況があまり市民に伝わっていないため、依然として低い割合となっている。
--------	--	---

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	見直し
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

# 災害時非常配備事業

[517]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0901	実施計画	
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	通常評価	総合戦略	
基本事業	09	(施策の総合推進)	担当	総務部 災害対策室		

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	市職員	<p>尾張旭市非常配備体制の周知。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 年度当初に非常配備体制の周知を行っている。</li> <li>2 出水期前や台風接近時には非常配備体制を把握しておくよう職員に呼び掛けている。</li> </ol> <p>尾張旭市非常配備体制の修正。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人事異動毎に非常配備体制の修正を行っている。</li> </ol>
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	<p>尾張旭市非常配備体制の見直し。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 非常配備体制における問題点を抽出し、より実務に則した体制を整備できるよう見直しを行っている。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常配備体制を地震災害と風水害に分けて整備。</li> <li>・第一非常配備体制の前段階として、警戒配備体制の整備。</li> <li>・避難所調整班の新設。</li> <li>・避難所調整班、避難所班、資機材班を非常配備体制の配備基準から切り離し、本部長の指示で配備できるよう変更。これにより、より柔軟に避難所を開設できるようにした。</li> </ul> <p>災害発生時に市職員が速やかに災害対策本部を設置し、応急復旧や避難所の運営などの初動活動ができるよう体制ができている。</p>

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績	
活動指標	第2非常配備以上の体制を行った回数	回	0	2	1	2	
成果指標	非常配備参集に問題があった件数	件	0	0	0	0	
指標・事業費	事業費 計						
	財源内訳	ア 国	千円				
		イ 県					
		ウ 地方債					
		エ その他					
オ 一般							

## H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】	
	非常に順調	
成果指標の状況】	維持・横ばい	
	【成果向上余地】	
	なし	

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価		
		実施状況	-

# 災害救助事業

[518]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0902	実施計画	
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	簡易評価	総合戦略	
基本事業	09	(施策の総合推進)	担当	健康福祉部 福祉課		

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	被災した市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災などの災害に遭われた市民に対し以下の活動を行う。 (実施内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>被災状況に応じた見舞金の支給及び援護金の貸付け</li> <li>緊急時の宿泊場所の提供</li> </ul> </li> <li>災害弔慰金の支給等に関する法律及び同法施行令の規定に基づき、以下の支給及び貸付けを行う。 (実施内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>暴風、豪雨等の自然災害により死亡した市民の遺族に対する災害弔慰金の支給</li> <li>自然災害により精神又は身体に著しい障害を受けた市民に災害障害見舞金の支給</li> <li>自然災害により被害を受けた世帯の世帯主に対する災害救護資金の貸付け</li> </ul> </li> </ul>
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	

被災した市民の復興作業がスムーズに行われる。  
災害弔慰金を支給すること等により、市民の福祉及び生活の安定に資する。

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績	
活動指標							
成果指標							
事業費 計			130	50	301		
財源内訳		ア 国					
		イ 県			2		
		ウ 地方債					
		エ その他					
		オ 一般	千円	130	50	299	

## H30年度実績の評価

成果実績評価	<b>【活動指標の状況】</b> 未設定 <b>【成果指標の状況】</b> 未設定 <b>【成果向上余地】</b> 未設定	
--------	--	--

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

# 土木施設災害復旧事業

[498]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	41-0903	実施計画	
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	評価対象外	総合戦略	
基本事業	09	(施策の総合推進)	担当	都市整備部 土木管理課		

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生に備え、土のうや復旧資材を準備する。</li> <li>災害発生時に土木施設の状況を調査する。</li> <li>被害を受けた施設の危険度を判定する。</li> <li>必要に応じて、被害を受けた施設の復旧工事を業者に発注する。</li> </ul>

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績	
活動指標							
成果指標							
事業費 計		千円			1,100		
財源内訳			ア 国				
			イ 県				
			ウ 地方債				
			エ その他				
		オ 一般			1,100		

## H30年度実績の評価

成果実績評価	<b>【活動指標の状況】</b> 未設定 <b>【成果指標の状況】</b> 未設定 <b>【成果向上余地】</b> 未設定	
--------	--	--

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

# 国民保護計画推進事業

[995]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	49-0901	実施計画
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	簡易評価	総合戦略
基本事業	09	(施策の総合推進)	担当	総務部 災害対策室	

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	市民(自主防災組織, 消防団) 市職員	<p>平成18年度 国民保護計画の策定 ・国民保護協議会・国民保護計画に係る事務 ・18年3月議会に国民保護協議会設置条例等制定議案の上程に係る事務</p> <p>平成19年度 国民保護計画策定以後 ・住民に対する広報活動、消防団・自主防災組織に対する啓発 ・実際の住民、職員の動きを定めた避難実施要綱を策定する。</p> <p>平成21年度 国民保護計画の修正 ・22年2月国民保護協議会を開催し、尾張旭市国民保護計画の修正について諮問し、答申を受ける。 ・市機構改革に伴う修正、国・県組織変更に伴う修正、県国民保護計画修正に合わせた修正</p> <p>平成26年度 国民保護計画の修正 ・市機構改革に伴う事務担当の修正、非常通信体制等の変更に伴う修正、法令、指針の改廃に伴う用語整理に伴う修正</p>
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
	国民の生命・身体及び財産の保護を図るため、住民の避難や救護、武力攻撃災害に対処できるような組織体制が整っている。	

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標	国民保護に関する訓練回数 (国民保護に関する広報回数(数値は<>))	回	1<1>	2	1	4
	国民保護協議会の開催数	回	0	0	1	0
成果指標						
事業費 計					90	
指標・事業費	財源内訳	ア 国	千円			
		イ 県				
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般				90

## H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】	
	順調	
	【成果指標の状況】	
	未設定	
	【成果向上余地】	
	未設定	

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

# 自衛官募集啓発事業

[909]

## 事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業コード	49-0903	実施計画	
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	簡易評価	総合戦略	
基本事業	09	(施策の総合推進)	担当	総務部 災害対策室		

## 事業の概要(目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象(誰、何に対して事業を行うのか)	手段(事務事業の内容、やり方、手順)
	市民に自衛隊員募集の啓発を行う。	<広報啓発> 自衛隊愛知地方協力本部瀬戸地域事務所からの依頼により、市広報紙に自衛隊員募集記事を年数回掲載する。 <総合防災訓練> 「自衛官募集コーナー」を設け、自衛隊員募集等普及啓発活動を行う。 <市民祭啓発> 「自衛隊コーナー(自衛隊愛知地方協力本部瀬戸地域事務所主体)」を設置し、自衛隊員募集等普及啓発活動として、啓発消耗物品(クリアファイル等)を購入し、市民に配布する。
	意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
市民が、自衛隊員募集の内容を知っているようになっている。		

## 活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動指標						
成果指標						
事業費 計		千円	45	42	50	42
財源内訳	ア 国		45	42	50	42
	イ 県					
	ウ 地方債					
	エ その他					
	オ 一般					

## H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】 未設定 【成果指標の状況】 未設定 【成果向上余地】 未設定	
--------	---	--

## H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	-

事業の位置づけ

一般会計

政策	04	安全で安心なまちづくり	事務事業 コード	99-0302	実施 計画	
施策	01	防災・減災対策の推進	評価区分	評価対象外	総合 戦略	
基本事業	09	( 施策の総合推進 )	担当	総務部 災害対策室		

事業の概要 (目的、手段)

事業目的と概要 (30年度分)	対象 (誰、何に対して事業を行うのか)	手段 (事務事業の内容、やり方、手順)
	意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	庶務事務 ・ 県等からの調査に対する回答に関すること(30%) 地域防災計画等、各種データ等を根拠に回答を作成する。 ・ 各種補助金申請に関すること(20%) 南海トラフ地震等対策事業費補助金については、おおよそ交付要望 交付内定 交付申請 交付決定 契約 契約に伴う補助金額減額 完了報告という流れで事務が進む。(年度末に翌年度以降の補助金要綱について説明会が開催される。) ・ 係の文書整理(他課からの調査等含む)に関すること(25%) 職員ポータルの閲覧機能を有効活用し、紙削減に配慮する。 ・ 係の消耗品購入に関すること(5%) 予算残額に留意する。 ・ 職員の防災服購入に関すること(10%) 新規採用職員用の防災服については、人事課に採用前事前調査で防災服サイズを確認し、採用年度の前年度中に購入事務を進め、4月1日の採用時に新規採用職員に渡す。 ・ 各種手数料等支払いに関すること(10%) 臨時職員に財務帳票作成を依頼する。支出管理用のエクセルがあるため、当該ファイルで支出額を管理しておくこと。

活動指標、成果指標、事業費の推移

指標名称		単位	28年度実績	29年度実績	30年度当初	30年度実績
活動 指標						
成果 指標						
事業費 計			2,411	1,746	1,969	2,245
財源内訳		ア 国				
		イ 県				
		ウ 地方債				
		エ その他				
		オ 一般	千円	2,411	1,746	1,969

H30年度実績の評価

成果実績評価	【活動指標の状況】 未設定 【成果指標の状況】 未設定 【成果向上余地】 未設定
--------	---

H30年度実施取組方針の実績評価

実施取組方針実績評価	H30年度実施取組方針	本部方向性	維持
	H30年度実施取組方針の実績評価	実施状況	未設定